

2017年9月19日号

Weekly Market Report

SMBC信託銀行 投資調査部レポート

本レポート記載のマクロ経済見通しは、当行がライセンス契約を結んでいる
Citi Research の予測を参照しています

2017年9月19日

目次

 SMBC信託銀行株式会社 投資調査部
 山口真弘 二宮圭子 白鳥朋子 佐溝将司 祖父江康宏 齊藤聡

米国市場の見通し

➤ P 2

- マクロ経済 ➤ 物価上昇ペースの鈍化に歯止め
- 株式市場 ➤ FOMCを無難通過ならば、税制改革期待から上値追いか
- 債券市場 ➤ 利上げ見通しが示されれば金利低下余地は限られよう

欧州市場の見通し

➤ P 3

- マクロ経済 ➤ 労働コスト指数は2年ぶりの大幅な伸び
- 株式市場 ➤ 注目イベントの影響は限定的か
- 債券市場 ➤ 独国債利回りの低下余地は限定されよう

日本市場の見通し

➤ P 4

- マクロ経済 ➤ 金融政策の現状維持が決定されよう
- 株式市場 ➤ 日経平均株価の2万円台での定着は時間がかかろう
- 債券市場 ➤ 欧米との国債利回り格差は拡大しやすい

中国・インド市場の見通し

➤ P 5

- マクロ経済 ➤ 中国: いくらかの景気刺激策が必要
- 中国株式市場 ➤ 景気の先行きに対する楽観的な見方は後退したが…
- インド株式市場 ➤ FOMC後の反応を見極め

為替見通し

➤ P 6~P 8

- 米ドル ➤ FOMC後は様子見姿勢か
- 加ドル ➤ 加ドルは上値を試す展開か
- ユーロ ➤ ECB高官は政策変更慎重姿勢を維持
- 英ポンド ➤ 金利先高観に支えられポンド上伸
- 豪ドル ➤ 要人発言に注目
- NZドル ➤ 経済成長ペースの加速が見込まれる

マーケット・データ、カレンダー

➤ P 9

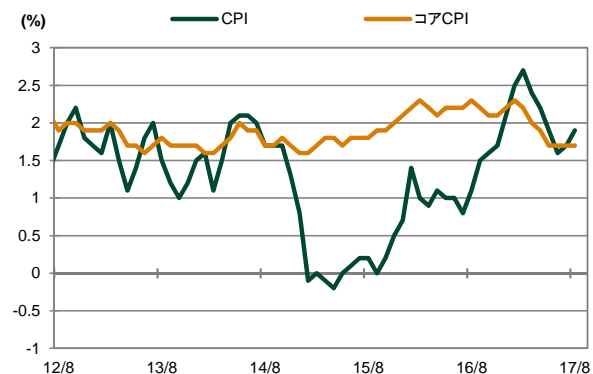
本レポートは、株式会社SMBC信託銀行(以下「SMBC信託銀行」といいます)が経済、市況他、投資環境に関する情報をお伝えすることのみを目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料でも特定ファンドの勧誘資料でもありません。本レポートに掲載された内容は発行時における当行の見解や予測を紹介するもので、予告なしに変更することがあります。SMBC信託銀行はここに記載された情報が十分信頼に足るものとして信じておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。本レポート中のグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。当資料中のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資の選択や投資時期の決定は必ずご自分の判断でなされるようお願いいたします。

米国市場の見通し

マクロ経済 >> 物価上昇ペースの鈍化に歯止め

- 8月の消費者物価指数(CPI)上昇率は、総合指数で前年比1.9%、食品・エネルギーを除くコア指数で同1.7%と、それぞれ市場予想(同1.8%、同1.6%)を上回るとなった。ハリケーンの影響で9月もガソリン価格などの上昇が見込まれ、物価上昇ペースの鈍化に歯止めがかかりつつある。製品別では、財価格の下落が続いているものの、サービス価格は上昇率が拡大し、物価上昇のすそ野も広がっている。
- このほか、8月の鉱工業生産は前月比0.9%減、8月の小売売上高は同0.2%減といずれも市場予想(ともに同0.1%増)に反して減少。月末のハリケーンの影響で振るわなかった。

米消費者物価指数上昇率(前年比)



出所: 米労働省

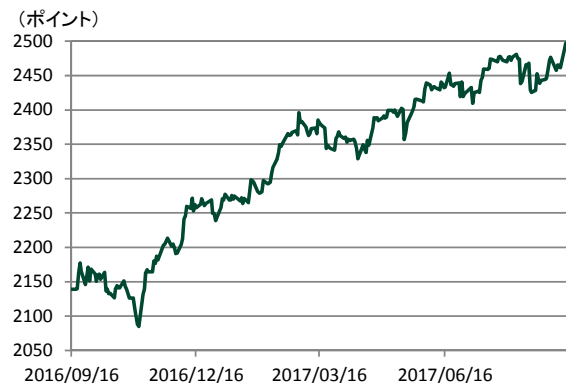
株式市場 >> FOMCを無難通過ならば、税制改革期待から上値追いか

週間騰落率(9/11~9/15)

ダウ平均: +2.16%、S&P500: +1.58%

- S&P500種株価指数は週間ベースで大幅反発。北朝鮮情勢やハリケーンへの警戒が後退し、リスク回避の巻き戻しが強まった。また、議会共和指指導部が25日週にトランプ米政権の意向を反映した税制改革案を提示すると伝わったことも、支援材料となった。
- 北朝鮮情勢への警戒が続くなか、19、20日の米連邦公開市場委員会(FOMC)に注目が集まっており、週半ばまでは様子見姿勢となろう。FOMCでは量的金融緩和政策の終了は概ね織り込まれており、年内の追加利上げに関して、過度にタカ派な内容とならなければ株価の反応は限られよう。無難な通過となれば、来週予定されている税制改革案への期待から上値を追う展開が見込まれる。

S&P500種株価指数



出所: Bloomberg

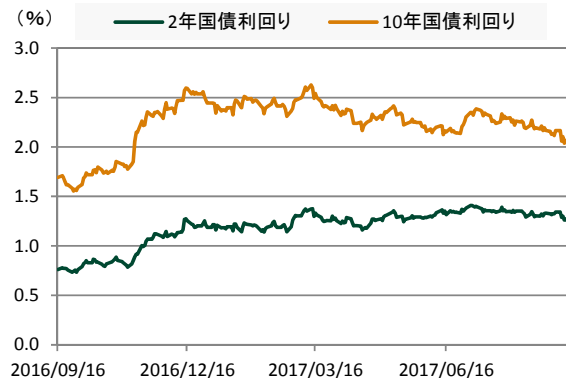
債券市場 >> 利上げ見通しが示されれば金利低下余地は限られよう

利回り(9/15)

10年国債: 2.20%(前週末比: +0.15%)

- 週間ベースで大幅反落。北朝鮮情勢やハリケーンへの懸念が和らぎ、週前半から大きく売られた。また、3年、10年、30年国債入札がいずれも不調な結果に終わったほか、米政権と民主党との接近による税制改革の進展期待や、CPIの上振れを受けた年内利上げ観測の再燃などから、その後も軟調な展開が続いた。
- 今週はもみ合いか。米10年国債利回りは先週2.2%近辺で頭打ちとなったが、19、20日の米連邦公開市場委員会(FOMC)での年内利上げの見通しに変更がなければ、金利低下余地も限られよう。北朝鮮情勢を巡る警戒が相場の支援材料となる一方、来週公表の税制改革案が重しとなり、方向感を探る展開となろう。

米国債利回り



出所: Bloomberg

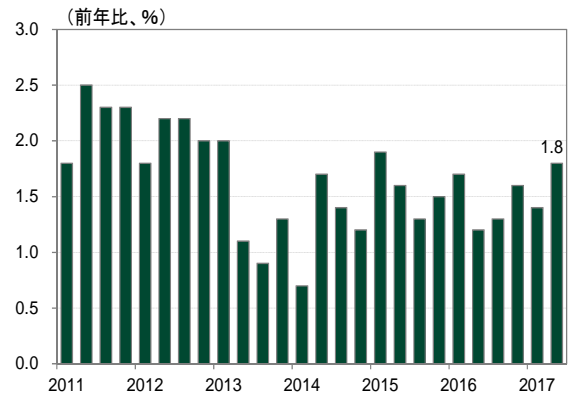
本レポートは、株式会社SMBC信託銀行(以下「SMBC信託銀行」といいます)が経済、市況他、投資環境に関する情報をお伝えすることのみを目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料でも特定ファンドの勧誘資料でもありません。本レポートに掲載された内容は発行時における当行の見解や予測を紹介するもので、予告なしに変更することがあります。SMBC信託銀行はここに記載された情報が十分信頼に足るものとして信じておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。本レポート中のグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。当資料中のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資の選択や投資時期の決定は必ずご自分の判断でなされるようお願いいたします。

欧州市場の見通し

マクロ経済 ▶▶ 労働コスト指数は2年ぶりの大幅な伸び

- 先週発表された4-6月期のユーロ圏の労働コスト指数は、前年比1.8%上昇と1-3月期(同1.4%上昇)を上回り、2年ぶりの大幅な伸びとなった。同指数は企業側のコストを示す指標で、賃金や賞与といった直接費用や社会保障拠出や医療給付といった間接費用のいずれも含まれる。振れが大きい指標とはいえ、賃金増→物価上昇との連想が働きやすい結果といえよう。
- 18日に発表された8月のユーロ圏消費者物価指数(HICP)上昇率(改定値)は、エネルギー、食料、アルコール、たばこを除くコアが前年比1.2%で速報値と一致。物価上昇の勢いは鈍いものの、2013年6月以来の高水準となっている。

ユーロ圏労働コスト指数・上昇率



出所: 欧州連合(EU)統計局(ユーロスタット)

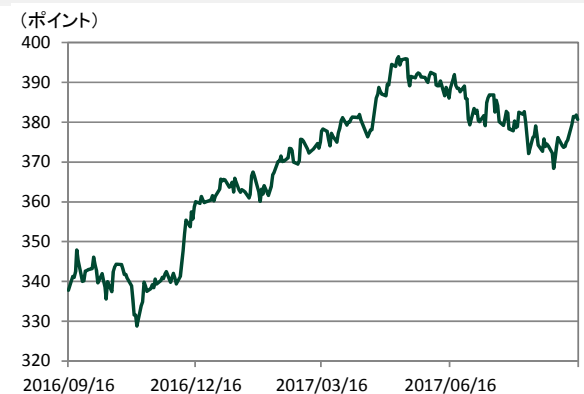
株式市場 ▶▶ 注目イベントの影響は限定的か

週間騰落率(9/11~9/15)

ストックス欧州600指数: +1.38%、独DAX指数: +1.75%

- ストックス欧州600指数は週間ベースで反発。北朝鮮リスクの後退や大型ハリケーンの米経済への悪影響が限定的との見方から週初に買いが先行。その後は早期利上げ観測に伴う英国株安や再び地政学リスクが高まったことが重しとなり、伸び悩んだ。
- 今週は19、20日の米連邦公開市場委員会(FOMC)や24日のドイツ(独)連邦議会選挙など注目のイベントが控える。ただ、いずれも大きな波乱はないとの見方が大勢を占めていることから、相場への影響は限定的か。ポンド高がさらに加速するようであれば英国株安がストックス欧州600指数の重しとなろうが、ユーロ相場は1.20ドルの大台で伸び悩んでいるためその他欧州株への過度な警戒感はやや不要となろう。

ストックス欧州600指数



出所: Bloomberg

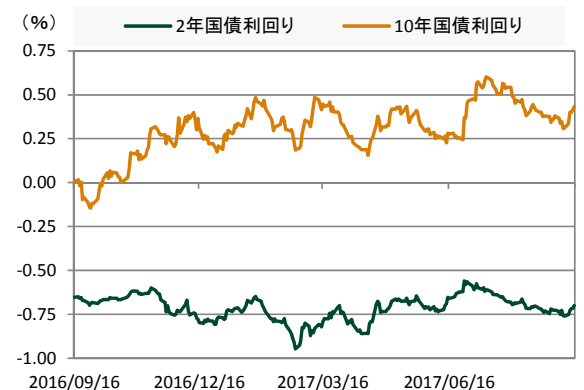
債券市場 ▶▶ 独国債利回りの低下余地は限定されよう

利回り(9/15)

独10年国債: 0.43%(前週末比: +0.12%)

- 独国債相場は4週ぶりに大幅反落。北朝鮮情勢への警戒感が緩んだことを背景に週初から世界的に債券売りが進んだうえ、早期利上げ観測に伴う英国債の下落や欧州中銀(ECB)の量的緩和縮小を見込む動きも相まって、売り優勢のまま越週。
- 独10年国債利回りは、8日に一時0.3%を割り込んだものの18日には0.4%台半ばまで持ち直しており、水準訂正は概ね一巡したとみてよいだろう。19、20日のFOMCを経て米国債利回りがさらに上昇するのであれば8月2日以来となる0.5%台の回復も見込まれる。一方、米国債利回りが低下すれば戻り一服となろうが、早期利上げ観測を背景に英国債利回りの上昇が続いていることから、独国債利回りの低下余地は限定されよう。

ドイツ国債利回り



出所: Bloomberg

本レポートは、株式会社SMBC信託銀行(以下「SMBC信託銀行」といいます)が経済、市況他、投資環境に関する情報をお伝えすることのみを目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料でも特定ファンドの勧誘資料でもありません。本レポートに掲載された内容は発行時における当行の見解や予測を紹介するもので、予告なしに変更することがあります。SMBC信託銀行はここに記載された情報が十分信頼に足るものとして信じておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。本レポート中のグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。当資料中のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資の選択や投資時期の決定は必ずご自分の判断でなされるようお願いいたします。

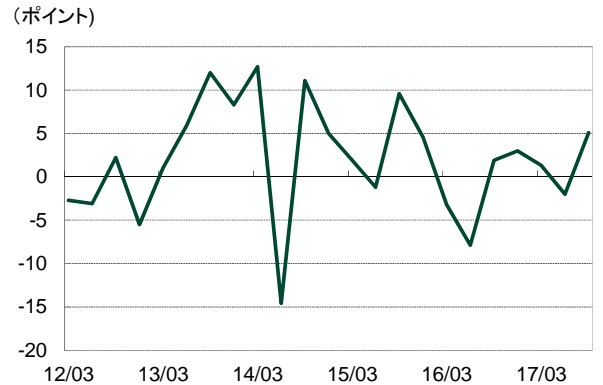
日本市場の見通し

マクロ経済 >> 金融政策の現状維持が決定されよう

法人企業景気予測調査(大企業全産業BSI)

- 実質GDP成長率(前期比年率)は4-6月期の2.5%から、7-9月期は2.1%、10-12月期は1.8%と緩やかな減速を予想しているものの、緩やかな景気拡大局面にあるとの判断を変更する必要はないと判断している*1。一方、インフレは引き続き低調で、日銀が前回7月会合から認識を改める公算は小さい。20、21日の金融政策決定会合では金融政策の現状維持が決定されよう。
- 7-9月期法人企業景気予測調査によれば、大企業全産業の「貴社の景況判断」BSI(上昇-下降)がプラス5.1ポイントと、前期(マイナス2.0ポイント)から上昇。幅広い業種で数値の好転が確認され、企業景況感がはっきりと改善したことがうかがえる。

*1 「日本経済ウィークリー」2017.9.15, Citi Research



出所:財務省

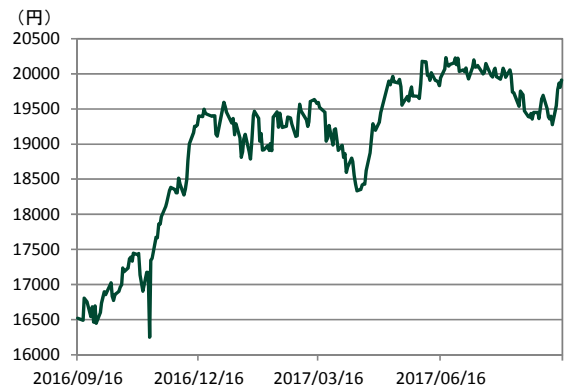
株式市場 >> 日経平均株価の2万円台での定着は時間がかかりそう

週間騰落率(9/11~9/15)

日経平均株価: +3.29%、TOPIX: +2.85%

- 週間ベースで大幅上昇。北朝鮮が9日の建国記念日に新たな挑発行為に出なかったほか、国連安全保障理事会会で決議された北朝鮮への制裁が軍事衝突を引き起こすほど厳しい内容とならなかったことも安心感につながり、押し目買いが優勢となった。
- 19日の取引序盤で日経平均株価が2万円台を回復しているが、9月27日の配当権利落ちを狙った買いにより一時的に押し上げられている側面もあることから、株価の実勢は日経平均先物12月限の水準を確認すべきだろう。海外勢は9月第一週に現物を7週連続で売り越し、先物も再び売り越している。日経平均株価が2万円台で定着するには時間がかかりそう。

日経平均株価



出所: Bloomberg

債券市場 >> 欧米との国債利回り格差は拡大しやすい

利回り(9/15)

10年国債: 0.03%(前週末比: +0.03%)

- 週間ベースで下落。投資家のリスク回避姿勢が和らぎ、安全資産需要が後退、売りが優勢となった。米国やドイツの国債利回り上昇につれる動きも出て、10年国債利回りは一時0.05%台に乗せる場面もあった。
- 19、20日の米連邦公開市場委員会(FOMC)ではバランスシートの縮小開始が決定される見込みで、米国債利回りの上昇につれて本邦国債市場でも利回り上昇圧力がかかる可能性がある。その場合、7月上旬に指値オペにより抑えられた0.11%付近が意識されよう。欧米国債利回りに一段の上昇圧力がかかれば、本邦国債との利回り格差拡大が意識されよう。

日本国債利回り



出所: Bloomberg

本レポートは、株式会社SMBC信託銀行(以下「SMBC信託銀行」といいます)が経済、市況他、投資環境に関する情報をお伝えすることのみを目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料でも特定ファンドの勧誘資料でもありません。本レポートに掲載された内容は発行時における当行の見解や予測を紹介するもので、予告なしに変更することがあります。SMBC信託銀行はここに記載された情報が十分信頼に足るものとして信じておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。本レポート中のグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。当資料中のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資の選択や投資時期の決定は必ずご自分の判断でなされるようお願いいたします。

中国・インド市場の見通し

マクロ経済 >> 中国: いくつかの景気刺激策が必要

- 中国: 8月消費者物価指数上昇率は前年比1.8%と、事前予想(同1.6%)および前月(同1.4%)を上回った。今年2番目の高い伸びを示したが、多雨による生鮮食品の価格上昇など一時的な要因によるもので、食品以外の物価上昇は小幅にとどまっている。インフレに対する警戒感が強まる可能性は低いだろう。
- 14日に公表された8月の主要経済指標は7月に続き軟化しており、景気の勢いが落ち込みつつあることを示す内容となった。当行では今年の実質GDP成長率は6.8%との見方を維持しているものの、景気の落ち込みを回避するためにはいくつかの景気刺激策の実施が必要とみている*1。

*1 “China Economics Flash”, 2017.9.13, Citi Research

中国: 8月主要経済指標

| (前年比) | 事前予想 | 実績 | 前月 |
|---------|-------|-------|-------|
| 消費者物価指数 | 1.6% | 1.8% | 1.4% |
| 生産者物価指数 | 5.7% | 6.3% | 5.5% |
| 小売売上高 | 10.5% | 10.1% | 10.4% |
| 固定資産投資 | 8.2% | 7.8% | 8.3% |
| 鉱工業生産 | 6.6% | 6.0% | 6.4% |

出所: 国家統計局

中国株式市場 >> 景気の先行きに対する楽観的な見方は後退したが...

週間騰落率 (9/11~9/15)

MSCI CHINA: +2.35%、CSI300 指数: +0.14%

- CSI300指数は前週に続いてほぼ横ばい。政府が化石燃料車の禁止を検討していると報じられたことで電気自動車関連銘柄が買われるなどしたが、元高に歯止めがかかったことや週後半に発表された低調な経済指標が重しとなり、方向性に欠けた。
- 先週発表された1-8月の固定資産投資など一連の経済指標は低調だったため中国景気の先行きに対する楽観的な見方は後退した。ただ、先月末から今月初めに国家統計局や財新/マーケットが発表した8月の各種PMIは総じて堅調だったことから、一気に悲観的なムードが広がることも考えにくい。来月の共産党大会に向けて政策期待も高まりやすく、当面は上値が重くなることはあっても大崩れはないとみている。

MSCI CHINA、上海シンセンCSI300指数



出所: Bloomberg

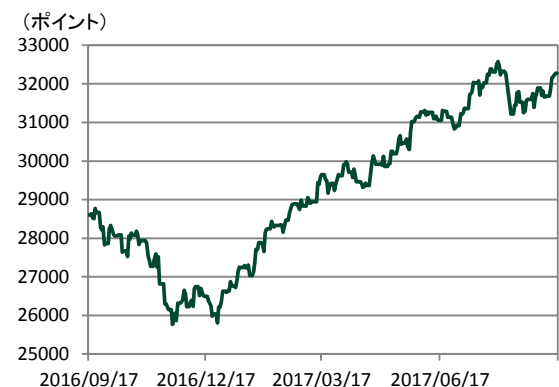
インド株式市場 >> FOMC後の反応を見極め

週間上昇率 (9/11~9/15)

センセックス指数: +1.85%

- センセックス指数は週間ベースで反発。北朝鮮情勢や米ハリケーン被害に対する懸念が緩和し、世界的にリスク回避の巻き戻しが進むなかで、インド株も値を戻す展開が続いた。
- 国連制裁決議への反発を強める北朝鮮の動きが引き続き波乱要因であるものの、緊張が高まらなければ、今週も小高い展開か。もっとも、19、20日に開催される米連邦公開市場委員会(FOMC)で量的金融緩和政策の転換が見込まれるなか、週後半までは様子見姿勢を強めそうだ。特に為替市場で米ドル高が進行する場合は、新興国市場からの資本流出への警戒につながりやすく、海外投資家からの売り増加に可能性に注意したい。

センセックス指数



出所: Bloomberg

本レポートは、株式会社SMBC信託銀行(以下「SMBC信託銀行」といいます)が経済、市況他、投資環境に関する情報をお伝えすることのみを目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料でも特定ファンドの勧誘資料でもありません。本レポートに掲載された内容は発行時における当行の見解や予測を紹介するもので、予告なしに変更することがあります。SMBC信託銀行はここに記載された情報が十分信頼に足るものとして信じておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。本レポート中のグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。当資料中のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資の選択や投資時期の決定は必ずご自分の判断でなされるようお願いいたします。

為替見通し(米ドル、加ドル)

今週の予想レンジ

◆ドル円 109.00-112.30円

今週の注目ポイント

- FOMC (9/19、20)
- 米:8月中古住宅販売件数 (9/20)
- 米:9月製造業 PMI (9/22)

ドル円(出所:SMBC信託銀行)



*1 "US Economic Flash", 2017.9.14, Citi Research

■ 米ドル≫FOMC後は様子見姿勢か

- 9月9日の北朝鮮建国記念日に何事もなく、ハリケーンイルマの被害も想定より小さく、週初からリスクオフの巻き戻しの動き。ドル円は108円台前半から111円ちょうど付近へ上昇したが、8月の米消費者物価指数(CPI)上昇率発表後は上昇一服。CPIは前年比1.9%と前月(同1.7%)から加速、今年3月以降初めて市場予想を上回ったが、ハリケーンの影響もあった模様。15日早朝の北朝鮮によるミサイル発射で109円台後半へ下落後は111円台前半へ切り返した。8月の米小売売上高は前月比0.2%減、6-7月も下方修正と不振だったが、材料視されず、110円台後半で越週。18日は米連邦公開市場委員会(FOMC)への期待から111円台後半へ上伸した。
- 19、20日のFOMCでバランスシート縮小を決定後、12月には利上げを実施するとの予想を当行は維持している*1。米トランプ政権は税制改革の骨子を25日にも発表する。新年度予算成立に向けて、議会交渉にも進展がみえてきた。安保理で制裁強化が決まったにもかかわらず北朝鮮がミサイルを発射したことで地政学的リスクは再燃したが、市場の関心は薄れている。こうしたなかFOMCまではドル円は200日移動平均線の112円27銭辺りまで戻りを試す展開ながら、その後はしばらく様子見に転ずると予想する。その場合のドル円の下値メドは週足一目均衡表雲下限108円84銭辺りか。

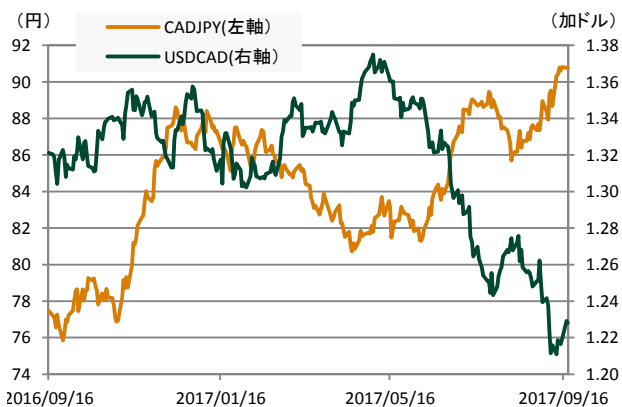
今週の予想レンジ

◆加ドル円 89.00-92.00円
◆米ドル加ドル 1.2100-1.2400加ドル

今週の注目ポイント

- 加:7月製造業売上高(9/19)
- 加:8月消費者物価指数(9/22)
- 加:7月小売売上高(9/22)

加ドル円、米ドル加ドル(出所:SMBC信託銀行)



*1 "Canada Economic View", 2017.9.6, Citi Research

■ 加ドル≫加ドルは上値を試す展開か

- 9月6日のカナダ(加)中銀(BOC)による政策金利引き上げに波紋が広がっている。市場の多くが利上げは10月と予想していたため、一部の市場関係者はBOCが市場とのコミュニケーションを怠ったと批判。BOCは「金融政策はフォワードルッキングであり、データ次第」というBOCのメッセージを正しく理解した人も多かった」と反論している。今後、市場は統計結果に神経質な動きとなりそうだ。米ドル加ドルは1.20加ドル台後半から1.22加ドル台前半で上下していたが、18日のBOCレーン副総裁の加ドル高牽制発言に1.23加ドル台前半まで下落。一方、加ドル円は米ドル円上昇も相まって、週を通じて88円台後半から2015年12月以来の91円台後半へ上伸したが、18日はBOC副総裁発言もあり90円台前半へ下落した。
- 当行は高成長が続くなど条件付きながら、10月26日の追加利上げもあり得るとみる*1。こうしたなか9月22日に発表される8月の加消費者物価指数(CPI)の結果には注目が集まる。市場予想では前年比1.5%上昇と7月(同1.2%上昇)から加速する見通し。BOCが加ドル高の牽制姿勢を明確にしたものの、インフレ加速が確認されれば、追加利上げの観測が強まり、加ドル買いに勢いがつこう。米ドル加ドルの上値メドは2015年5月14日以来の加ドル高水準となる1.19加ドル台前半。一方、加ドル円は節目の92円を試す場面もあるだろう。

本レポートは、株式会社SMBC信託銀行(以下「SMBC信託銀行」といいます)が経済、市況他、投資環境に関する情報をお伝えすることのみを目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料でも特定ファンドの勧誘資料でもありません。本レポートに掲載された内容は発行時における当行の見解や予測を紹介するもので、予告なしに変更することがあります。SMBC信託銀行はここに記載された情報が十分信頼に足るものとして信じておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。本レポート中のグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。当資料中のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資の選択や投資時期の決定は必ずご自分の判断でなされるようお願いいたします。

為替見通し(ユーロ、英ポンド)

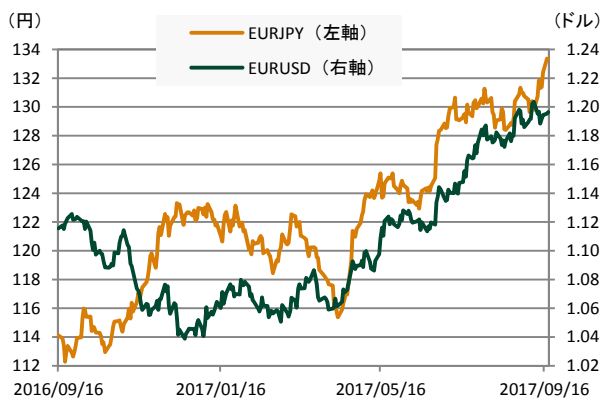
今週の予想レンジ

- ◆ユーロ円 132.00-135.00 円
- ◆ユーロドル 1.1800-1.2100 ドル

今週の注目ポイント

- 独:9月 ZEW 景況感調査(9/19)
- 欧:9月製造業・サービス業 PMI(9/22)

ユーロ円、ユーロドル(出所:SMBC信託銀行)



ユーロ»ECB 高官は政策変更には慎重姿勢を維持

- 先週週初は北朝鮮の建国記念日(9日)に合わせた軍事行動がなかったことから米朝関係のさらなる悪化に対する警戒感が和らいだ。また、ハリケーン「イルマ」の勢力が弱まるなか米景気減速への懸念が後退し、ここ最近軟調に推移していたドルが反発する流れに。ユーロドルは1.20ドル台前半から1.18ドル台前半へ下落する場面もみられた。ただ、その後はドルの持ち直しに一服感が広がり、週明け18日のNY市場終盤にかけては1.19ドル台後半で推移した。ユーロ円は上下の振れを伴いつつもドル円が底堅く推移するなか129円台後半から一時133円台半ばへ値を伸ばし、2015年12月以来の高値を付けた。
- ベルギーのタイト紙は16日、欧州中央銀行(ECB)のプラート理事へのインタビューを公表し、「成長は回復し、デフレのリスクはなくなった。だが、現在の景気拡大はより力強いインフレ力学にはまだ十分につながっていない」と述べ、かなりの刺激策がなお必要との認識が示されたことを明らかにした。ユーロ高の進行が域内の物価を下押しするリスクなどを警戒しているものとみられ、金融政策の変更には慎重姿勢を維持している。今週発表される経済指標は9月のユーロ圏製造業PMIが前月を下回る一方、サービス業PMIは改善するなどまちまちな内容が市場で見込まれている。米連邦公開市場委員会(FOMC)など外部要因に左右されつつ目先のユーロは上値の重い展開か。

今週の予想レンジ

- ◆ポンド円 149.00-152.00 円
- ◆ポンド米ドル 1.3330-1.3550 米ドル

今週の注目ポイント

- 英:8月小売売上高(9/20)
- 英:8月財政収支(9/21)
- カーニー-BOE 総裁講演(9/18)

ポンド円、ポンドドル(出所:SMBC信託銀行)



英ポンド»金利先高観に支えられポンド上伸

- 8月の英消費者物価指数(CPI)上昇率は前年比2.9%と前月(同2.6%)から伸びが加速。5-7月平均の週平均賃金(除賞与)の伸びは前年比2.1%と前月と不変だが、失業率は4.3%と42年ぶりの低水準へ低下。こうしたなか、14日の英中銀(BOE)金融政策委員会では政策据え置きを決定したが、「今後数カ月内に一定の金融刺激策縮小が適切となる可能性がある」と過半数の委員が判断したと表明。カーニー総裁やブリハ委員が早期利上げ支持を表明し、ポンドドルは2016年6月以来の高値となる1.36ドル台前半まで、ポンド円は週初の142円台半ばから年初来高値となる151円台半ばへ上伸。ただ、18日にカーニー総裁が利上げペースは緩やかと述べ、ポンドドルは1.34ドル台後半へ、ポンド円も150円台前半へ下落した。
- 市場予想によれば、8月の英小売売上高は前月比0.2%増と前月(同0.3%増)から伸びが鈍化する見通しだが、物価高のなか消費失速のリスクはくすぶる。BOEは欧州連合(EU)離脱の過程で起こり得るリスクも強調している。メイ首相の22日のEUとの将来に関する演説や10月のEUサミット等のイベントをこなせるか注目だ。さらに9月のCPI上昇率が3%を超え、労働市場のタイト化が続く場合には、11月利上げも現実化すると当行はみる*1。ただ、当面ポンドは金利先高観に支えられ、節目の152円辺りを目指し底堅く推移する公算が大きい。

*1 "UK Economics Flash", 2017.9.14, Citi Research

本レポートは、株式会社SMBC信託銀行(以下「SMBC信託銀行」といいます)が経済、市況他、投資環境に関する情報をお伝えすることのみを目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料でも特定ファンドの勧誘資料でもありません。本レポートに掲載された内容は発行時における当行の見解や予測を紹介するもので、予告なしに変更することがあります。SMBC信託銀行はここに記載された情報が十分信頼に足るものとして信じておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。本レポート中のグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。当資料中のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資の選択や投資時期の決定は必ずご自分の判断でなされるようお願いいたします。

為替見通し(豪ドル、NZドル)

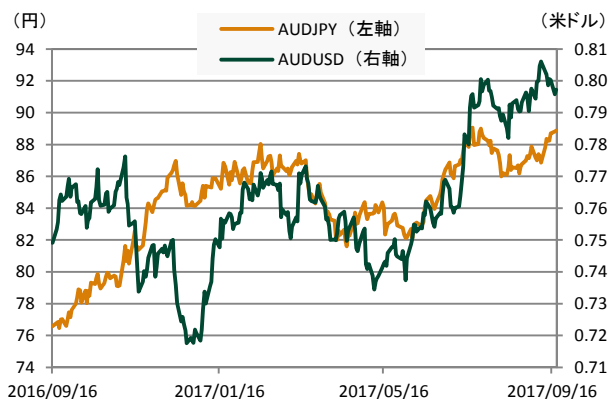
今週の予想レンジ

- ◆豪ドル円 87.40-90.50 円
- ◆豪ドル米ドル 0.7810-0.8120 米ドル

今週の注目ポイント

- 豪: エリス RBA 総裁補・講演(9/20)
- 豪: ロウ RBA 総裁・講演(9/21)

豪ドル円、豪ドル米ドル(出所: SMBC信託銀行)



■ 豪ドル》 要人発言に注目

- 米朝関係の緊迫化やハリケーンによる米経済への悪影響に対する懸念がやや後退するなか、先週半ばにかけては米ドル高地合いとなった。ただ、豪州で発表された9月のWestpac消費者信頼感指数は97.9と4カ月ぶりの高水準となったほか、8月の雇用統計では雇用者数が前月比5万4200人増と市場予想(同2万人増)に反して前月(同2万9300人増)から伸びが加速するなど良好な経済指標が目立った。こうしたなか、豪ドル米ドルは0.80米ドル台後半から0.79米ドル台半ばへ下落する場面もみられたが、同水準では下げ渋った。豪ドル円は米ドル円が堅調に推移するなか87円台前半から89円台前半へ上伸したが、週明けはやや上値が重く88円台後半へ上げ幅を縮小。
- 今週は豪州準備銀行(RBA)のエリス総裁補やロウ総裁が講演する予定。9月5日に開催されたRBA理事会の声明では「最近のデータは来年にかけて豪州経済が勢いを増すとRBAの予想と一致している」とされており、景気の先行きに対して明るい見方が示されるか注目。一方、ここ最近の豪ドル高を勘案すると、通貨高に対する牽制が強められる可能性にも留意を要する。豪ドル米ドルは2017年9月8日高値0.8125米ドル、豪ドル円は2015年12月4日高値90円73銭付近が上値メド。一方、豪ドル米ドルは75日移動平均線0.7813米ドル、豪ドル円は週足一目均衡表・転換線87円44銭付近がサポートとみられる。

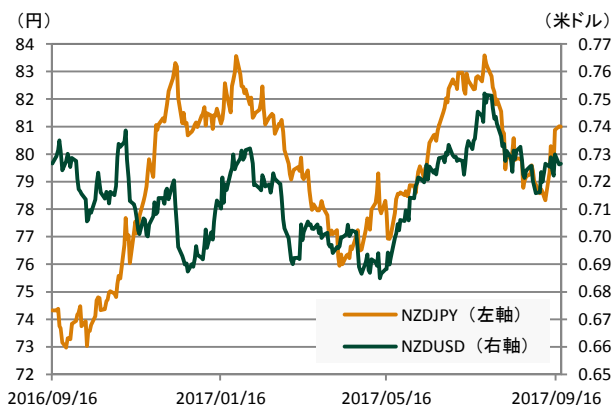
今週の予想レンジ

- ◆NZドル円 79.80-82.30 円
- ◆NZドル米ドル 0.7100-0.7400 米ドル

今週の注目ポイント

- NZ: 4-6月 GDP(9/21)

NZドル円、NZドル米ドル(出所: SMBC信託銀行)



■ NZドル》 経済成長ペースの加速が見込まれる

- ニュージーランド(NZ)のニュースハブが9月12日に発表した調査で与党・国民党の支持率が上昇したことが明らかになった。こうしたなかNZドルが買われ、NZドル米ドルは0.73米ドル台前半へ上昇。その後は米ドルの持ち直しを背景に一時0.71米ドル台前半へ下落したが、8月のNZ製造業PMIが57.9と3カ月ぶりに前月から改善するなど景気の底堅さを示唆する指標が並ぶなか値を戻す流れに。19日には0.72米ドル台後半で取引を開始した。NZドル円は78円台前半から80円台前半へ上昇後にいったん押し戻されたが、週明けには再び値を伸ばす展開となった。足元では81円ちょうど付近で推移。
- 今週は21日に4-6月期のNZ実質GDPが発表される。市場予想によれば前期比0.8%増と前期(同0.5%増)から伸びが加速し、昨年7-9月期以来の高成長となる見通し。NZ経済は堅調との見方が広がるなか、目先のNZドルは底堅い推移か。ただ、23日には総選挙が行われる予定で、政治情勢を見極める向きから徐々に様子見ムードが広がりそうだ。また、25日の市場では選挙結果を手掛かりに高下する可能性もあるため注意したい。NZドル米ドルは8月10日高値0.7371米ドル、NZドル円は8月3日高値82円29銭付近が目先の上値メド。一方、NZドル米ドルは8月31日安値0.7132米ドル、NZドル円は週足一目均衡表・基準線の位置する79円80銭付近が下値メドとみられる。

本レポートは、株式会社SMBC信託銀行(以下「SMBC信託銀行」といいます)が経済、市況他、投資環境に関する情報をお伝えすることのみを目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料でも特定ファンドの勧誘資料でもありません。本レポートに掲載された内容は発行時における当行の見解や予測を紹介するもので、予告なしに変更することがあります。SMBC信託銀行はここに記載された情報が十分信頼に足るものとして信じておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。本レポート中のグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。当資料中のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資の選択や投資時期の決定は必ずご自分の判断でなされるようお願いいたします。

2017年9月19日

マーケット・データ

(2017年9月15日時点)

| 国・地域 | 指標 | 9/15 | 騰落率(%) | |
|-------|------------------|------------|--------|-------|
| | | | 週間 | 年初来 |
| 米国 | NYダウ工業株30種 | 22,268.34 | 2.16 | 12.68 |
| 米国 | S&P500種 | 2,500.23 | 1.58 | 11.68 |
| 米国 | ナスダック総合株価指数 | 6,448.47 | 1.39 | 19.79 |
| ブラジル | ボベスバ指数 | 75,756.52 | 3.66 | 25.78 |
| ヨーロッパ | ストックス欧州600指数 | 380.71 | 1.38 | 5.34 |
| イギリス | FT100指数 | 7,215.47 | -2.20 | 1.02 |
| ドイツ | DAX指数 | 12,518.81 | 1.75 | 9.04 |
| フランス | CAC40 | 5,213.91 | 1.96 | 7.23 |
| ロシア | RTS指数 | 1,123.43 | 0.34 | -2.51 |
| トルコ | イスタンブールナショナル100種 | 107,741.70 | -0.65 | 37.89 |

| 国・地域 | 指標 | 9/15 | 騰落率(%) | |
|--------|---------------|-----------|--------|-------|
| | | | 週間 | 年初来 |
| 日本 | 日経平均株価 | 19,909.50 | 3.29 | 4.16 |
| 日本 | TOPIX | 1,638.94 | 2.85 | 7.92 |
| 日本 | JASDAQ指数 | 156.77 | 3.97 | 27.76 |
| 香港 | ハンセン指数 | 27,807.59 | 0.50 | 26.39 |
| 中国 | MSCI CHINA | 83.78 | 2.35 | 42.85 |
| 中国 | 上海深センCSI300指数 | 3,831.30 | 0.14 | 15.75 |
| 韓国 | 韓国総合指数 | 2,386.07 | 1.81 | 17.75 |
| 台湾 | 加権指数 | 10,580.41 | -0.28 | 14.34 |
| シンガポール | ST指数 | 3,209.56 | -0.59 | 11.41 |
| インド | センセックス指数 | 32,272.61 | 1.85 | 21.21 |

| 国・地域 | 指標 | 9/15 | 騰落率(%)※ | |
|------|----------|------|---------|-------|
| | | | 週間 | 年初来 |
| 米国 | 10年国債利回り | 2.20 | 0.15 | -0.24 |
| ドイツ | 10年国債利回り | 0.43 | 0.12 | 0.23 |
| 日本 | 10年国債利回り | 0.03 | 0.03 | -0.02 |
| 豪州 | 10年国債利回り | 2.74 | 0.06 | -0.02 |

※債券利回りは変動幅(%)

| 国・地域 | 指標 | 9/15 | 騰落率(%) | |
|------|-----------|----------|--------|-------|
| | | | 週間 | 年初来 |
| 米国 | NAREIT指数 | 688.23 | 0.15 | 5.32 |
| 日本 | 東証REIT指数 | 1,671.44 | 0.12 | -9.94 |
| 米国 | WTI原油先物価格 | 49.89 | 5.08 | -7.13 |
| 米国 | NY金価格 | 1,321.30 | -1.93 | 14.73 |

| 通貨 | 9/15 | 騰落幅(円) | |
|------|--------|--------|-------|
| | | 週間 | 年初来 |
| ドル円 | 110.83 | 2.99 | -6.13 |
| ユーロ円 | 132.42 | 2.63 | 9.45 |
| ポンド円 | 150.69 | 8.36 | 6.19 |

| 通貨 | 9/15 | 騰落幅(円) | |
|-------|-------|--------|-------|
| | | 週間 | 年初来 |
| 加ドル円 | 90.82 | 2.13 | 3.81 |
| 豪ドル円 | 88.70 | 1.84 | 4.48 |
| NZドル円 | 80.88 | 2.55 | -0.10 |

出所: SMBC信託銀行

マーケット・カレンダー

(2017年9月19日~2017年9月24日)

| | 北米 | | 欧州 | | アジア | |
|---------|---------------|------|------------------|----|----------------|-------|
| 9/19(火) | (米) FOMC | ~20日 | (独) ZEW景況感指数 | 9月 | (豪) RBA理事会議事要旨 | 9/5分 |
| | (米) 住宅着工・許可件数 | 8月 | | | | |
| 9/20(水) | (米) 中古住宅販売件数 | 8月 | (英) 小売売上高 | 8月 | (日) 通関ベース貿易収支 | 8月 |
| | | | | | (日) 日銀金融政策決定会合 | ~21日 |
| 9/21(木) | (米) 景気先行指数 | 8月 | (欧) 消費者信頼感指数 | 9月 | (NZ) GDP | 4-6月期 |
| 9/22(金) | (米) 製造業PMI | 9月 | (欧) 製造業・サービス業PMI | 9月 | | |
| | (加) 小売売上高 | 7月 | | | | |
| | (加) 消費者物価指数 | 8月 | | | | |
| 9/23(土) | | | | | | |
| 9/24(日) | | | | | | |

出所: SMBC信託銀行

本レポートは、株式会社SMBC信託銀行(以下「SMBC信託銀行」といいます)が経済、市況他、投資環境に関する情報をお伝えすることのみを目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料でも特定ファンドの勧誘資料でもありません。本レポートに掲載された内容は発行時における当行の見解や予測を紹介するもので、予告なしに変更することがあります。SMBC信託銀行はここに記載された情報が十分信頼に足るものとして信じておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。本レポート中のグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。当資料中のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資の選択や投資時期の決定は必ずご自分の判断でなさるようお願いいたします。